



学校だより

たちばな

2023年1月10日

尼崎市立立花小学校
校長 植木 加代子

おだやかな日の出とともに希望の新年の幕開けです

昨年本校教育に温かいご理解ご協力を賜り誠にありがとうございました。立花小学校も本年はいよいよ3月に150歳の誕生日を迎えます。11月には式典を、そして子どもたちとは歴史的節目に在校している喜びを思い出として味わう行事を計画しています。地域の歴史から感謝や地元への愛着を感じ、世代が交代していても語り継いでいってほしいとの願いから、保護者地域の皆様と思い出を作ることができる企画を子どもたちとともに進める予定です。皆様のおかげで今の立花小学校がある感謝をお伝えいたしますとともに、今後とも引き続きご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。

今年は卯年、うさぎ年です。うさぎは繁栄の象徴とされています。欧米にはイースターというお祭りがあります。たまごをかたどった飾りやお菓子が回り、茶色いピーターラビットのよううさぎのファミリーが町中を横切る風景が早春によく見られました。賑やかで温かい家庭があることを幸せと感じるのは万国共通のことなのだと思います。一方、日本には「二兎追う者は一兎も得ず」ということわざがあり、一つの仕事一筋に精進するのが良しとされてきました。しかしメジャーリーグの大谷選手は、二刀流で投打ともに世界の一流であることを証明し、前例がないことを理由に夢や可能性をあきらめる必要はないという希望を与えてくれました。昨今、セカンドキャリアや副業といった言葉がメディアでも聞かれるようになり、終身雇用に住み着かず、どんどんキャリアアップしつつ2足でも3足でも可能ならどんどん履きこなしていくのがこれからの時代になっていくとのこと。自分はだめだ、能力がないと思っている子どもや大人はいませんか。これまでの価値観を覆す時代になりますよ。楽しみです。ICTは刃物と同じ。リスクをしっかりと教え守りながらも正しく使いこなすことで、世界の平和や不可能を可能にする夢を広げてほしい。感謝や温故知新の精神も携えて、子どもたちの学習を支えていきましょう。

ところで、昨年末の紅白歌合戦の番組で「時代遅れのロックンロール」を歌っていたバンドの歌の詞の一節がとても心に響いた、といひますかハートを打ち抜かれてしまったのでご紹介します。「子どもの命を全力で 大人が守ること それに自由という名の誇りさ」。平和や幸福が実現している世の中とはどんな社会のことをいうのだろうと考えていたところ、全身に電気が走りました。何度となくここに書いてきた、連携して子どもたちを育てるということを、「自由という名の誇りさ」で表現し切ったところは流石でうならされました。また、大晦日に聴いたセカイノオワリのHABITの歌詞にも恐れ入りました。私が、子どもへの理解をすすめています、と呼び掛けてきたことを、本質を突き、かつセンスよく世の若者の心に直球で伝えきり、大いに支持され心震える感動と共感の波を広げたのです。全く未来は明るいです。

40歳になったら自分の顔に責任をもてといわれます。メイク等ではごまかせない生き様や価値観などの内面が、眼差しや声色など全身からその人の品格としてあふれ出すからだそうです。保護者の皆様は子どもをもたれたと同時に覚悟を決め、自分の命にかえてでもわが子を幸せにと精一杯悩みながらも日々子育てに邁進されています。それが、親になる、ということだと思います。私たちは子どもたちが40歳になった頃に愛と責任感にあふれ、輝いて生きる大人であってもらうことをイメージしながら、生きる基礎となる知徳体を培う教育を行います。子どもの勝負は今の優劣では決まりません。学校のような同じ年齢の子どもが集う場所で自他のよさを互いに見出し、自己有用感を高め合うことが基礎になるのです。

さて最後に、イソップ寓話「うさぎとかめ」のうさぎになって、物語をつくってみましょう。もしうさぎが、かめに負けなくらいまっすぐな心の持ち主だったら、？お子さんと話し合ってみてください。

本年も、平和な一年となりますように。